

③ 日本一のまちづくり!! — 自分達でできることは 自分達でする —

高根つつじ野区防災会（館林市）

団体概要

設立年度：平成13年度
人口：907人
世帯数：333世帯
（ともに平成23年4月1日現在）



▲ 初期消火訓練実施の様子

地域の状況

地理的状況： 平野部

地域の概況： 館林市の北西部に位置し、高根町の南には、国道122号、東武伊勢崎線が南北に走り、道路の交通が頻繁な新興住宅地である

過去の災害： 地域内では大きな災害の発生はないが、平成21年7月には館林市内で竜巻による災害が発生している。

○組織結成の経緯

（結成までの経緯）

- 行政からの呼びかけにより、市内では一番初めに自主防災組織を結成した。

（結成の際に苦労、工夫したこと）

- 効果的な活動が展開できるような組織編成とするために、手探り状態で工夫して自主防災組織を作り上げた。また、活動に必要な装備品は、県や市の補助金制度を活用して整備した。

（行政の関わりなど）

- 組織結成に向けて、連携を図って対応した。

○特徴的な取り組み内容

（自主防災組織活動の詳細な内容）

- 防災訓練は、春・秋の年2回実施している。これまでの訓練は、実際の消火器を使用しての初期消火訓練、起震車による地震体験訓練、応急救護訓練等、地元消防と連携を図って防災訓練を実施している。可搬型消火ポンプを装備し、初期消火以上の消火活動ができる実践的な訓練も実施している。

（避難計画）

- 災害時要援護者のうち妊婦や未就学児童のいる家庭を地図上にマーカーし、災害時や万一の際に支援活動が行えるように、居住地域ごとにサポート役を記載したマップを作成しているが、これにより避難時等には対応することとしている。
- 市の指定避難所に集合する前に、居住地域ごとに安否確認を行う場所として、第一次避難集会所の指定等について検討中である。

（行政の関わりなど）

- 市からの補助金を活用するなどして、防災訓練を実施している。また、初期消火訓練等の際には、地元消防署員の指導を受けるなど、連携を図って対応している。



▲ 防災訓練の煙体験の様子



▲ 応急手当、AEDを使用した蘇生訓練の様子

○組織の形態

本部長（区長） - 副本部長（副区長）

- 情報収集・避難誘導・環境衛生・救護・炊き出し各部長
- 各部など8班

○活動の成果や問題点など

【よかった点など】

- 地元で火災が発生した際の消火活動ができたこと。
- 地元のバレーボールやソフトボール部など、もともと団結力のある団体を自主防災会の組織に組み入れることにより、それらの団体が自主防災組織の活動を支え、活発な自主防災会の活動が展開できるようになった。

【苦労した点など】

- 地区住民の大勢が訓練に参加できるようにするため、起震車を始めとする車両、機材等の手配や調整を行い、訓練の目玉となるものを取り入れて訓練を実施している。
- 回覧板を活用して訓練開催を周知するなど、大勢の人の参加を呼びかけるために工夫をしている。（行政の関わりなど）

●訓練開催に向けての調整や訓練実施時の指導要請等について、連携を図って対応している。

●市で開催する防災講演会への出席、防災訓練への参加など積極的に行っている。

○活動の課題や今後の取り組みの予定

【課題となっていること】

- 自主防災組織活動に必要な装備品を整備したことから、災害時に使用できるように実践的な訓練を行ってきたが、訓練内容について更に検討を加える余地がある。
- 自主防災組織内の若い人は、昼間は働きに出かけて不在であるため、不在時に災害等が発生した場合を想定した補完措置や対応についての検討が必要である。
- 災害時要援護者としての高齢者の避難対応措置や居住者の安否確認対応について、効率的、効果的な計画を策定する必要がある。

【課題解決のための取り組み計画】

- 実際の災害時に活動できる組織とするために、地域内に残っている人それぞれの役割をあらかじめ決めておく必要があり、現在、役割分担作業に取り組んでいる。
- 災害時要援護者としての高齢者等のマップを作成し、安否確認も含めた新たな避難訓練を計画中である。
- 今後とも行政機関と連携して活動を展開していきたい。